

出版産業のシステムとマーケティング情報



出版社・書店システムガイド特集

◆事例と活用

- 京セラ丸善システムインテグレーション……………4
- 光和コンピューター……………5
- ディキューブ……………8
- メトロコンピューターサービス…9

◆システムサポート会社一覧…6/7

- ◆広告特集……………11/12
- 光和コンピューター/メトロコンピュータサービス/ディキューブ/ターティアラボ/京セラ丸善システムインテグレーション

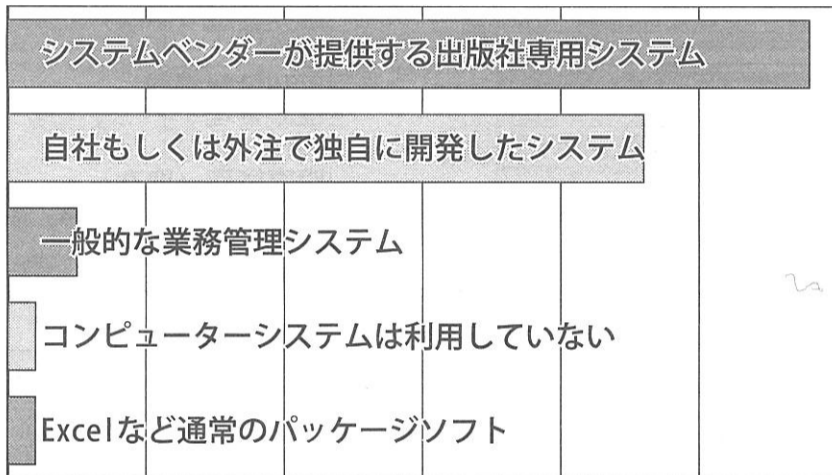
電子書籍の販売・印税管理に高い関心
出版社システムアンケートシステム導入には業務改革を重視する

文化通信社は出版社の基幹システム利用状況などを調べる「出版社システムアンケート」を実施した。調査は2011年11月22日～12月5日の期間で、郵送もしくはメールでアンケート用紙を

送付し、FAX等で返送してもらう方法で、日本書籍出版協会、日本雑誌協会、出版コンピュータ研究会に加盟する出版社を中心に560社に実施、このうち113社(回答率20.1%)から回答を得

た。回答社の属性は、売上高1億円以上～50億円未満の社が69.2%。従業員数は50人未満で69.0%。書籍刊行点数は年間100点未満で70.3%「出版社システムアンケート」の質問項目はA～Kまでの11項目(質問項目と回答選択肢は11面掲載)で、現在使用しているシステム、今後の入れ替え等の予定、導入を希望するシステムなどについて聞いた(関連記事は文化通信1月16日付8面)。

使用しているシステム



た。回答社の属性は、売上高1億円以上～50億円未満

質問Aの現在使用しているシステムでは、「システムベンダーが提供する出版社専用システム」が多く、次いで「自社もしくは外注で独自に開発したシステム」が続くが、回答社の売上規模別にみると、売上高5億円未満の社で「専用システム」が最も多かったのに対し、売上高5億円以上の社で

は「独自開発システム」が逆転する。

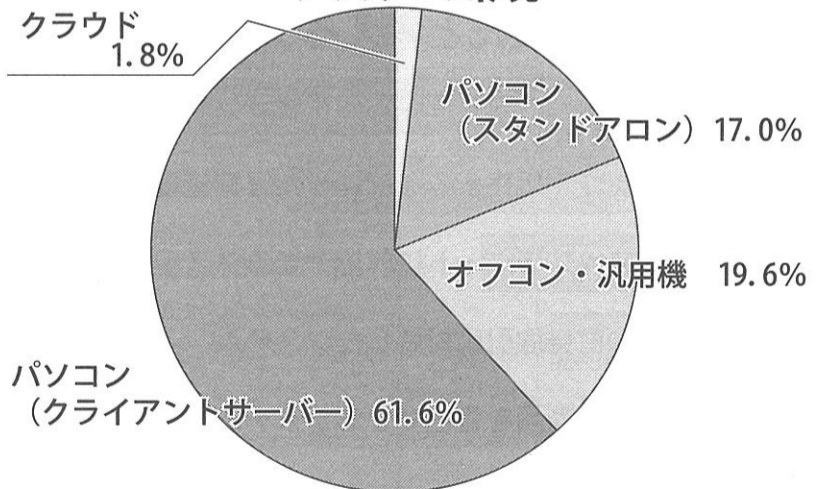
売上高が1億～5億円の社では「専用システム」18に対し「独自開発システム」11だが、5億～10億円では9対9と拮抗し、10億～50億円で10対15、50億～100億円で1対10と圧倒的に「独自システム」が多くなる。

質問Dのシステム環境は、「パソコン(クライアントサーバー)」が最も多く61.6%を占め、「オフコン・汎用機」が19.6%、「パソコン(スタンドアロン)」が17.0%。

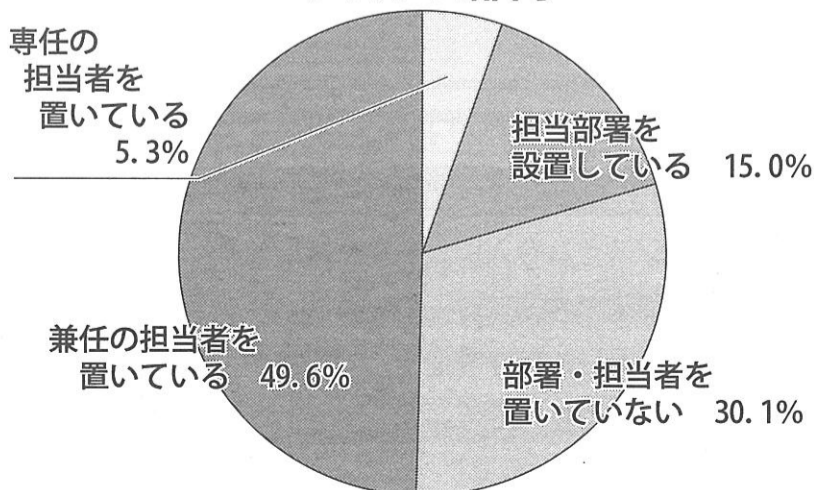
これを規模別にみると、売上高1億円未満の社では58.3%が「パソコン(スタンドアロン)」、25.0%が「オフコン・汎用機」となり、「パソコン(クライアントサーバー)」は16.7%にとどまる。

一方、1億～5億円では「パソコン(クライアントサーバー)」が58.8%、「パソコン(スタンドアロン)」が29.4%ととなり、5億～10億円では「パソコン(クライアントサーバー)」が66.7%、「オフコン・汎用機」が20.0%、「パソコン(スタンドアロン)」が6.7%。10億～50億円では「パソコン(クライアントサーバー)」が72.0%、「オフコン・汎用機」が28.0%となる。

システム環境



システム部門



質問Eのシステム部門は、全体では「専任の担当者を置いている」と「担当部署を設置している」を合わせて20.3%にとどまり、「部署・担当者を置いていない」が30.1%に達した。

売上高が1億円未満では、「部署・担当者を置いていない」が69.2%、「兼任の担当者を置いている」が23.1%。1億～5億円になると「兼任の担当者を置いている」が57.6%、「部署・担当

者を置いていない」が36.4%。5億～10億円では「兼任の担当者を置いている」が52.9%、「部署・担当者を置いていない」が29.4%、「専任の担当者を置いている」が11.8%となる。

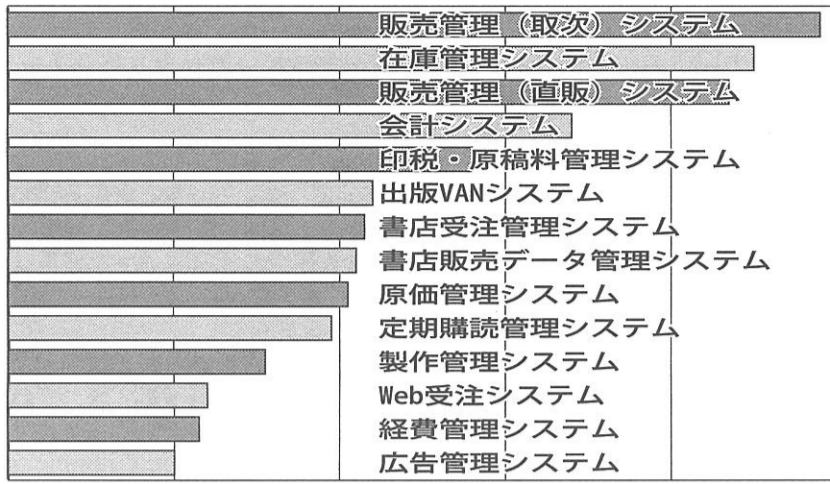
10億～50億円では何らかの形で担当がいるとの答えが83.3%に達し、50億円以上では、「担当部署を設置している」が57.9%、「兼任の担当者を置いている」が26.3%になる。

文化通信オンライン情報サービス 会員募集中

まずは無料会員登録を www.bunkanews.jp

出版社・書店システムガイド特集 システムアンケート

システムを導入している業務



質問Cのシステムを導入している業務は、「販売管理 (取次)」が最も多く、回答社中 98 社が導入していると回答。

次いで「在庫管理」90 社、「販売管理 (直販)」87 社、「会計」68 社、「印税・原稿料管理」56 社などが半数以上の社が導入していると答えている。

また、その他の答えとして、「雑誌付録」、「社版拡売」、「共同書店受注サイト」、「コールセンターCTI」、「教科書採用システム」、「電

子書籍印税システム」、「営業報告管理のシステム」、「高等学校管理システム」が各 1 社ずつあった。

回答社の売上規模別に現在導入しているシステムと今後導入を予定するシステムを比較すると、1 億円未満では、印税・原稿料管理は未導入だが、予定としては上位にある。

1 億～5 億円では原価管理の導入率が低いが、予定ではトップに入るといった差がある。

一方、質問Gの今後導入を考えているシステムでは、回答した 63 社のうち、「電子書籍の販売管理」が最も多く 25 社、次いで「原価管理」が 15 社、「印税・原稿料管理」が 14 社、「書店受注」「販売管理 (直販)」「会計システム」が各 11 社、「近刊情報登録」「在庫管理」「製作管理」「販売管理 (取次)」が各 10 社など。

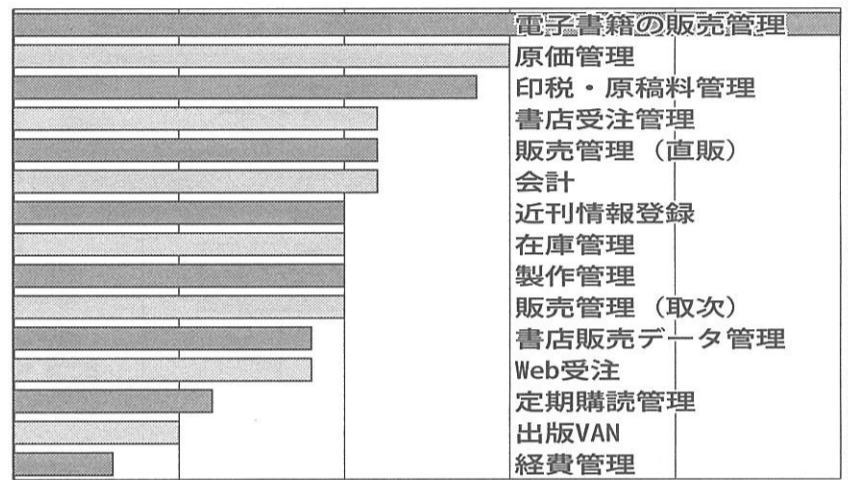
これを売上規模別にみると、1 億円未満の社は「印税・原稿料管理」、「書店受注管理」が多く、「電子書籍の販売管理」は 1 億円以上の規模ではいずれもトップになっており、電子書籍の事業が本

格化するのを前に、多くの出版社が必要を感じていることを示した。

また、1 億～5 億円では電子書籍に続いて「原価管理」「印税・原稿料管理」「Web 受注」が多かったのに対して、10 億～50 億円では「製作管理」「近刊情報登録」が多い。50 億～100 億円でもサンプル数は少ないが電子書籍に次いで「近刊情報登録」があることから、大手出版社には ONIX での提供が必要になる近刊情報登録のシステム化には一定のニーズもありそうだ。

このほかにその他として「ERP

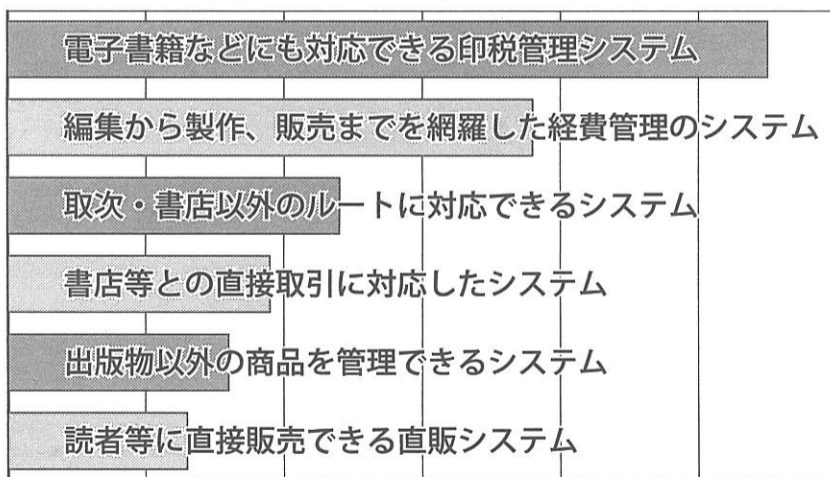
今後導入を考えているシステム



など、「全体を統一システムにしたい」、「システムのクラウド化を検討」などがあり、「原価管理」

を上げた社の中に「原価管理システムはパッケージで使い勝手が悪い」という意見もあった。

今後必要だと考えるシステム



質問Jの今後必要だと考えるシステムは、今後導入を予定してい

るシステムと同様に電子書籍に関する「電子書籍などにも対応でき

る印税管理システム」が 55 件で最多。次いで「編集から製作、販売までを網羅した経費管理のシステム」が 38 件、「取次・書店以外のルートに対応できるシステム」が 24 件、「書店等との直接取引に対応したシステム」が 19 件、「出版物以外の商品を管理できるシステム」が 16 件、「読者等に直接販売できる直販システム」が 13 件。

その他として、「発送場所が複数になってきたので統一できる在庫管理システム」「販売管理データ、定期購読者等の一般顧客の管理データ等を自由に簡単に CSV

出力できるシステム」といった回答もあった。

回答社の規模別では、1 億円未満は電子書籍に次いで「読者等に直接販売できる直販システム」があり、1 億～5 億円では 3 番目に「取次・書店以外のルートに対応できるシステム」、4 番目に「書店等との直接取引に対応したシステム」が入っている。

これに対して、100 億円以上の社では「書店等との直接取引に対応したシステム」と「読者等に直接販売できる直販システム」はゼロだった。

質問Iのシステム導入・変更で重視することは、1 位が「システム導入にともなう業務改革」、2 位が「従来の作業フローの継承性」と相矛盾するような項目が上位に並んだ。3 位は「充実した保守管理」、4 位は「機能の高さ」となり、価格については 5 位にとどまった。

これを質問Hでシステムの導入・変更を予定していると答えた

社 (10 社参照) でみると、1 位には「システム導入にともなう業務改革」と「充実した保守管理」が並ぶ。

次いで「機能の高さ」と「従来の作業フローの継承性」が同数で 3 位。「安易な操作性」「価格の安さ」「安定性」と続いている。

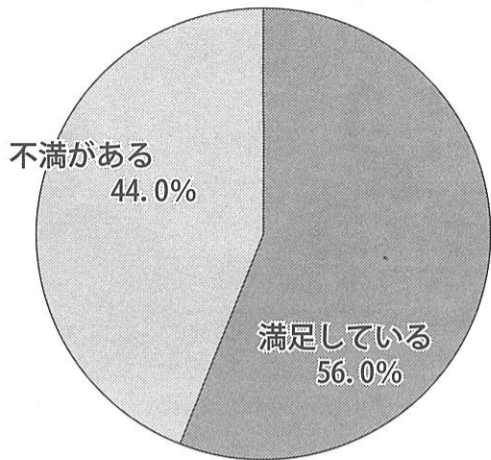
順位	項目
1	システム導入にともなう業務改革
2	従来の作業フローの継承性
3	充実した保守管理
4	機能の高さ
5	価格の安さ
6	容易な操作性
7	安定性

システム導入・変更で重視すること

システムアンケート 出版社・書店システムガイド特集

質問Fの利用しているシステムに対する満足度は、「満足している」が56.0%と半数を超えたが、システム環境の違いでみると、「パソコン(クライアントサーバー)」を利用している回答社は「満足している」が64.6%だったのに対して、「オフコン・汎用機」の利用社は

使用システムの満足度



パソコン(クライアントサーバー)	
満足している	64.6%
不満がある	35.4%
パソコン(スタンドアロン)	
満足している	47.4%
不満がある	52.6%
オフコン・汎用機	
満足している	40.9%
不満がある	59.1%

40.9%と逆転している。

不満の中身を聞くと、下記のように「不具合等」「処理速度等」「機能等」「統一性・データ連携等」「保守等」「課題・将来性等」に分類で

- 使用しているシステムの不満の内容**
- 不具合等**
- 旧プログラムの上に構築されているので希に不具合が発生する
 - トラブルが多い
 - システムが不安定
- 処理速度等**
- 処理速度に不満
 - 更新・SEVEなどのスピードが遅い
- 機能等**
- 業務の規模と合っていない(機能が多い)
 - 入力が手入力のみ。EXCEL等のファイルを読み込めない
 - 会計システムの検索性が低い
 - 出力帳票が最終形でないため編集が必要
 - 機器の老朽化、運用負荷、BCP対策
 - 複雑、老朽化
 - スペックが古くなった
 - 出版業務に必ずしも合っていない
 - 古くて使い勝手が悪い
 - 検索機能が不十分
 - 未だ仕様の通りに動作していない
 - 出版に特化していない
- 統一性・データ連携等**
- システムポリシーに統一性がない
 - 書誌マスタの統一性など改善点がある
 - システムの連携

きるが、将来の変化への対応についての不安や、「保守等」といったシステム会社の対応への不満も多いようだ。

- 一元化を進めている途中のため
 - 統合されていない
 - 業務ごとの更新のため、社内全体で情報が共有できない
 - ネット販売と基幹システム連携がとれていない
 - システムがバラバラ
- 保守等**
- 保守管理費用がやや高額
 - 対応が遅い
 - 要件要望から実現までの時間がかかり、機動性が望まれる
 - 現行のシステム以外のシステム導入が遅れている
 - 不具合改修・改善等の保守業務が多い
 - プログラム修正が高額
 - パソコンの保守管理が出来ていないため不安(ソフトの保守は出来ている)
- 課題・将来性等**
- Webベースへの移管
 - 原価管理システムと合わせて単品収支なども見たい
 - 現行でも十分機能しているが、将来の変化(消費税率変更等)に対応するという点ではやや不安
 - 数字を細分化して検証し、実績をより明確に、さらなる活用を強化したい
 - 電子書籍や消費税増税など考えうる変化に対応できない
 - 新しい条件が発生した時に柔軟性に欠ける点

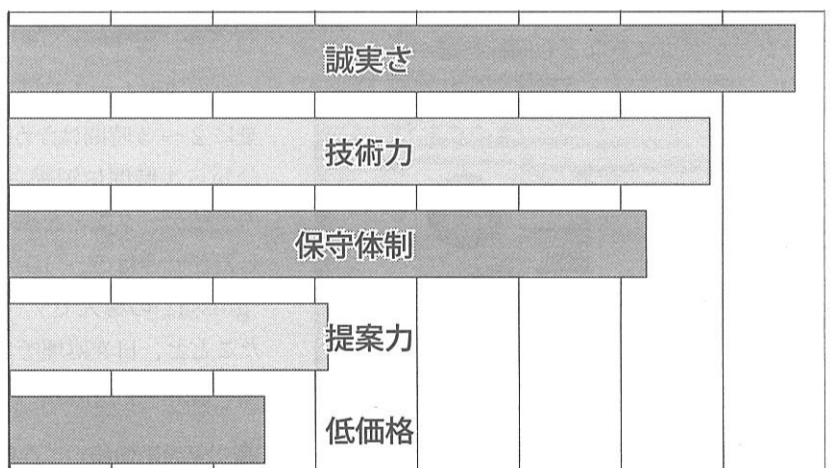
導入しているシステム提供会社

光和コンピューター
日販コンピューターテクノロジー
京セラ丸善システムインテグレーション
大塚商会
システムヤマト
富士通
OBC
IBM
情報工学研究所
日本事務器

質問Bの導入しているシステム提供会社は、左上のように出版社向けのパッケージを提供している「光和コンピューター」「日販コンピューターテクノロジー」「京セラ丸善システムインテグレーション」「大塚商会」の4社が上位を占

めた。また、質問Kのシステム会社に求めることでは、上右のように「誠実さ」「技術力」「保守体制」が上位を占めたのに対して、「低価格」は最も少なかった。

システム会社に求めること



その他としては、「出版業界の業務知識」と「先見性」があった。

回答社の概要

本アンケート調査にご回答いただいた出版社の概要は次の通り。
売上規模は、5000万円未満が4社、5000万円以上～1億円未満が9社、1億円以上～5億円未満が33社、5億円以上～10億円未満が17社、10億円以上～50億円未満が24社、

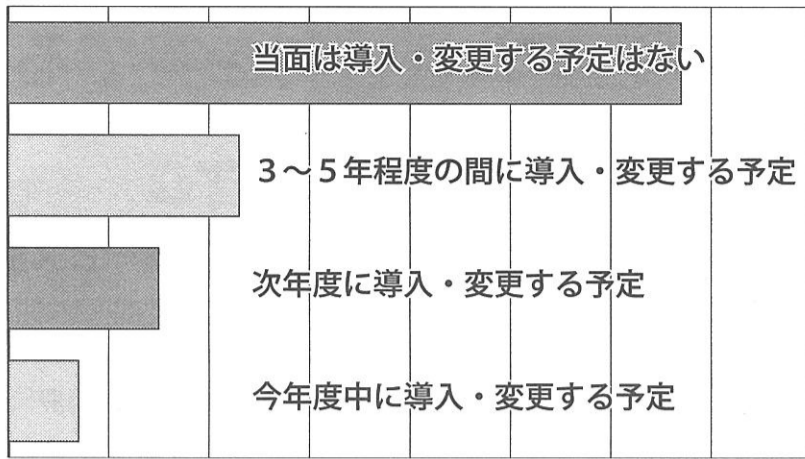
50億円以上～100億円未満が11社、100億円以上～500億円未満が6社、500億円以上～1000億円未満が2社、1000億円以上が1社。
従業員数は、10人未満が22社、10人以上～30人未満が36社、30人以上～50人未満が20社、50人以上～100人未満が17社、100人以上～300人未満が12社、300人以上～500人未満が1社、500人以上～1000人未

満が3社、1000人以上が2社。
年間書籍刊行点数は、20点未満が23社、20点以上～50点未満が28社、50点以上～100点未満が27社、100点以上～300点未満が22社、300点以上～500点未満が7社、500点以上～1000点未満が2社、1000点以上が2社。

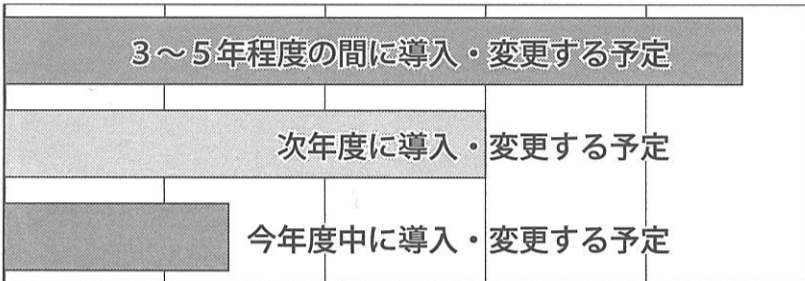
出版社・書店システムガイド特集

システムアンケート

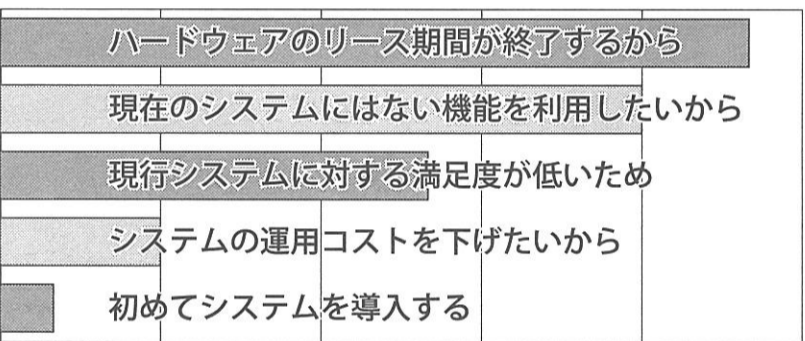
システムの導入・変更



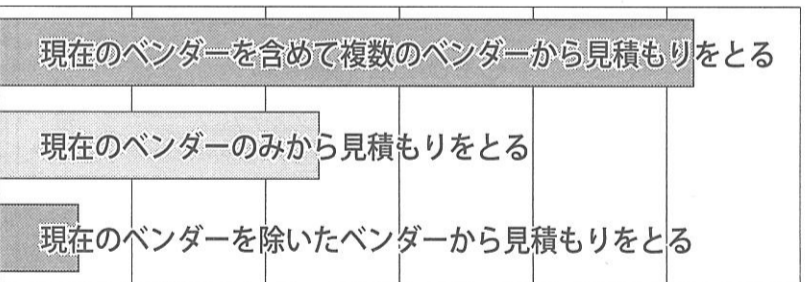
導入・変更の時期



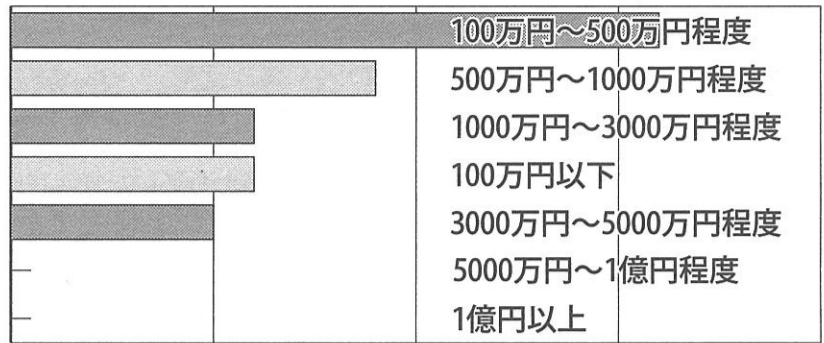
導入・変更の主な理由



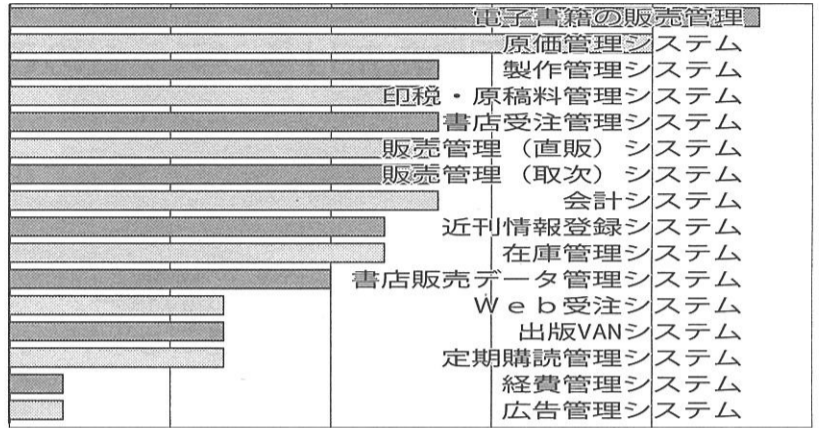
導入・変更する場合のシステム会社



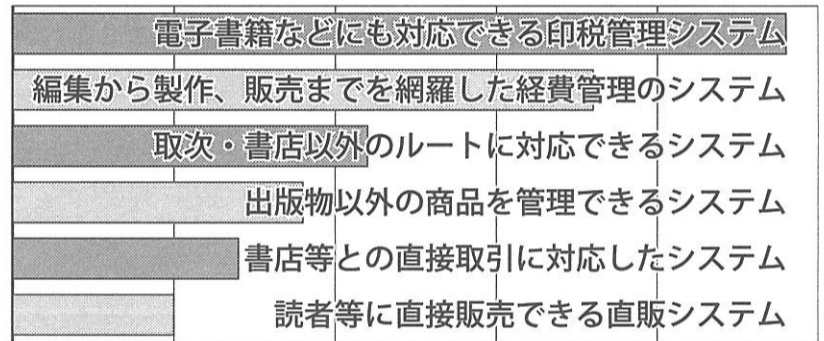
想定する予算



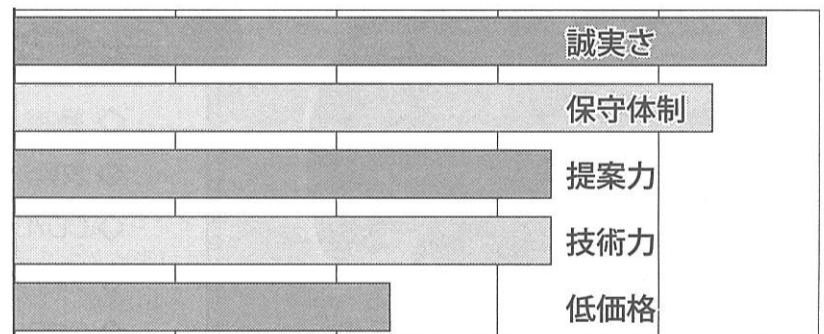
導入を検討しているシステム



今後必要と考えるシステム



システム会社に求めること



質問Hでシステムの導入・変更を聞いたところ、45社が導入・変更を予定していると答えた。

このページでは、導入・変更の予定があると答えた回答社のみで各項目を集計した。

導入・変更の理由で最も多かったのは、「ハードウェアのリース期間が終了する」で、次に「現在のシステムにはない機能を利用したい」が続

く。「初めてシステムを導入する」と答えたのは1社だった。

導入・変更にあたっての見積りは、「複数のベンダー」からという答えが26社と多いが、「現在のベンダーのみ」からとの答えも12社あった。

導入・変更する場合に想定する費用は、「100万円～500万円程度」が16社で最多。次に「500

万円～1000万円程度」が9社、「1000万円～3000万円程度」と「100万円以下」が同数で6社。

導入を検討しているシステムは、やはり電子書籍の管理が14社と多いが、原価管理も12社に達している。

文化通信 オンライン情報サービス

メディア業界の情報を素早く詳しくお届け!!
業界の最新情報を「ニュース速報」でメール配信
有料会員になると更に情報量と利便性がアップ!

- 「ニュース速報」(業界ニュース)の詳細記事
 - 「プレパブリシティ情報」
 - 「人事情報」
- ◎上記3コンテンツの過去記事もホームページで検索・閲覧!!

まずは
無料会員登録を!

▼文化通信

http://www.bunkanews.jp/

株式会社 文化通信社

発行所 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-4-3
電話 03(3812)7466 F A X 03(3812)7465

www.bunkanews.jp/

*この媒体は文化通信の御購読者の皆様に増刊号としてご提供しています。

©文化通信社 2012

お問い合わせ

- *記事内容に関して hensyuu@bunkanews.co.jp
- *広告ご出稿に関して eigyou@bunkanews.co.jp
- *意見・投稿 hensyuu@bunkanews.co.jp

システムアンケート 出版社・書店システムガイド特集

アンケート質問項目

以下の質問について、回答用紙の当てはまるものに○をつけ、記入欄にご記入ください。

A 業務管理等にどのようなシステムを利用していますか。(回答は一つお選びください)

1. システムベンダーが提供する出版社専用システム
2. 自社もしくは外注で独自に開発したシステム
3. 一般的な業務管理システム
4. Excelなど通常のパッケージソフト
5. コンピューターシステムは利用していない
6. その他 ()

B 導入しているシステム提供会社をご記入ください。

C 以下の中からシステムを導入している業務をお選びください。(複数回答可)

1. 会計システム
2. 販売管理(取次)システム
3. 販売管理(直販)システム
4. 書店受注管理システム
5. 書店販売データ管理システム
6. 定期購読管理システム
7. 広告管理システム
8. 印税・原稿料管理システム
9. 製作管理システム
10. 原価管理システム
11. 出版VANシステム
12. 在庫管理システム
13. Web受注システム
14. 経費管理システム
15. その他 ()

D 以下の中から貴社のシステム環境をお選び下さい。(回答は一つお選びください)

1. オフコン・汎用機
2. パソコン(クライアントサーバー)
3. パソコン(スタンドアロン)
3. クラウド

E 社内にシステム部門(担当者)を置いていますか。(回答は一つお選びください)

1. 担当部署を設置している。
2. 専任の担当者を置いている。
3. 兼任の担当者を置いている。
4. 部署・担当者を置いていない。

F 現在のシステムに満足していますか。(回答は一つお選びください)

1. 満足している。
2. 不満がある。
不満の内容 ()

G 今後導入をお考えのシステムはありますか。(複数回答可)

1. 会計システム
2. 販売管理(取次)システム
3. 販売管理(直販)システム
4. 書店受注管理システム
5. 書店販売データ管理システム
6. 定期購読管理システム
7. 広告管理システム
8. 印税・原稿料管理システム
9. 製作管理システム
10. 原価管理システム
11. 出版VANシステム
12. 在庫管理システム
13. Web受注システム
14. 経費管理システム
15. 近刊情報登録システム
16. 電子書籍の販売管理
17. その他 ()

H システムの導入・変更を検討していますか。(回答は一つお選びください)

1. 今年度中に導入・変更する予定。
2. 次年度に導入・変更する予定。
3. 3~5年程度の間導入・変更する予定。
4. 当面は導入・変更する予定はない。

H-1~H-3は【質問H】で導入・変更の予定があると答えた方への質問です。

H-1 導入・変更を行う主な理由は何ですか。(回答は一つお選びください)

1. 初めてシステムを導入する。
2. ハードウェアのリース期間が終了するから。
3. 現行システムに対する満足度が低いから。
4. 現在のシステムにはない機能を利用したいから。
5. システムの運用コストを下げたいから。

H-2 導入・変更を行う場合、現在導入しているベンダーのシステムを利用しますか。(回答は一つお選びください)

1. 現在のベンダーのみから見積もりをとる。
2. 現在のベンダーを含めて複数のベンダーから見積もりをとる。
3. 現在のベンダーを除いたベンダーから見積もりをとる。
4. その他 ()

H-3 システム導入で想定している予算額をお選びください。(回答は一つお選びください)

1. 100万円以下
2. 100万円~500万円程度
3. 500万円~1000万円程度
4. 1000万円~3000万円程度
5. 3000万円~5000万円程度
6. 5000万円~1億円程度
7. 1億円以上
7. 500人以上~1000人未満
8. 1000人以上

I システム導入・変更で重視することは何ですか。()に優先順位を付けてください。

1. 価格の安さ ()
2. 機能の高さ ()
3. 安定性 ()
4. 充実した保守管理 ()
5. 容易な操作性 ()
6. 従来の作業フローの継承性 ()
7. システム導入にともなう業務改革 ()

K システム会社に求めることで最も重要だとお考えをお選びください。(回答は一つお選びください)

5. 出版物以外の商品を管理できるシステム
6. 取次・書店以外のルートに対応できるシステム
7. その他 ()
1. 技術力
2. 誠実さ
3. 低価格
4. 保守体制
5. 提案力
6. その他 ()

J 今後、必要だとお考えのシステムはありますか。(複数回答可)

1. 書店等との直接取引に対応したシステム
2. 電子書籍などにも対応できる印税管理システム
3. 読者等に直接販売できる直販システム
4. 編集から製作、販売までを網羅した経費管理のシステム

L 貴社の現状について下記質問にお答えください。

- 年間売上高(昨年度実績)**
1. 5000万円未満
 2. 5000万円以上~1億円未満
 3. 1億円以上~5億円未満

○従業員数

1. 10人未満
2. 10人以上~30人未満
3. 30人以上~50人未満
4. 50人以上~100人未満
5. 100人以上~300人未満
6. 300人以上~500人未満

○年間の新刊点数

1. 20点未満
2. 20点以上~50点未満
3. 50点以上~100点未満
4. 100点以上~300点未満
5. 300点以上~500点未満
6. 500点以上~1000点未満
7. 1000点以上

○雑誌の発行点数

点

なお、本調査の実施と本特集号の発行にあたっては、次の各企業様のご協賛をいただいております。

京セラ丸善システムインテグレーション株式会社▽株式会社光和コンピュータ▽スターティアラボ株式会社▽株式会社ディキューブ株式会社メトロコンピュータサービス (50音順、敬称略)

出版業界 近刊情報時代の幕開け

近日、既刊本の検索・予約が可能に!

書店には客注の獲得。出版社には、マーケティング情報を提供!

光和コンピュータが提案する近刊対応2つ

1. 店頭での近刊予約端末



PITSPOT ビットスポット

PITSPOTは店頭での新たな近刊予約ツールとして来店客の方々が直接近刊予約(客注)を行う事を目的とした端末です。

発売月別検索 分類検索 出版社検索 書名・サブタイトル検索 著者検索

2. 近刊情報EDI支援システム

新機能を追加しました。

出版社	書店・取次
<ul style="list-style-type: none"> ■ 近刊情報登録機能 ■ 近刊登録一覧 ■ 書籍レコメンド登録機能 ■ 近刊JPOデータ送信機能 ■ 予約情報受付・ファイル出力 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 近刊JPOデータ受信機能 ■ 書籍レコメンド登録機能 ■ 近刊情報検索機能 ■ 近刊予約 ■ おすすめ書籍登録 <small>NEW</small> ■ 書籍検索ログ分析 <small>NEW</small> ■ 既存webサイトへの近刊検索機能を追加(リンク型) <small>NEW</small>